

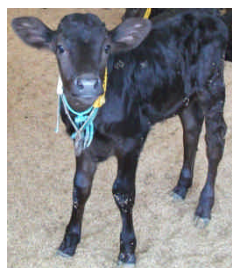
☆☆☆毎月8日は畜舎一斉消毒の日☆☆☆

牛群管理について

2012. 11. 11-12 市場研修会

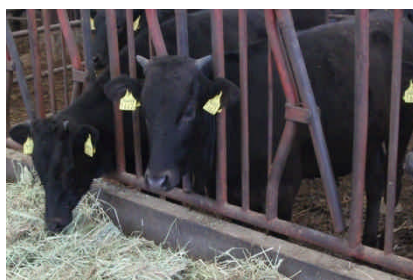
おおいた肉用牛振興協議会

牛群管理とは、『各生育ステージ毎に牛を飼養管理すること』を言います。



【生育ステージ】
哺乳期子牛

【主体となる餌】
ミルク
スターター



【生育ステージ】
離乳後～市場前子牛

【主体となる餌】
良質乾草
濃厚飼料



【生育ステージ】
繁殖用成雌牛

【主体となる餌】
稲わら
良質乾草

※参考までに、良質乾草にはチモシー、イタリアン、オーチャードなどがありますが、それぞれの栄養価や特徴は以下の表を参照してください。

粗飼料名		CP(%)	TDN(%)	繊維(%)	コメント
チモシー 乾草	輸入	6.7	56.3	29.7	栄養価、嗜好性はいずれも高く牧草の王様と言われ、子牛に最も適した餌です。
	国産	8.7	53.8	28.9	
イタリアン 乾草	輸入	5.6	58.3	29.2	チモシーと同様に栄養価、嗜好性のいずれも高い。ストローは栄養価が劣るため子牛には向きません。
	国産	9.7	53.4	28.5	
オーチャード 乾草	国産	10.9	50.3	27.9	チモシーには栄養価、嗜好性で劣るが、1番草は品質が良く子牛に適します。

* 牛群管理において大切な2つのポイントと2つの工夫 *

ポイント1、全頭が一斉に顔を出せるようなスペースの確保

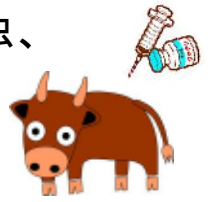


一斉に顔を出して餌を食べられるようにすることで、全頭が競合して沢山の餌を食べるようになります。

* 相性を判断して群編成を行うことも重要です *

ポイント2、感染症の予防接種や駆虫は一斉に！

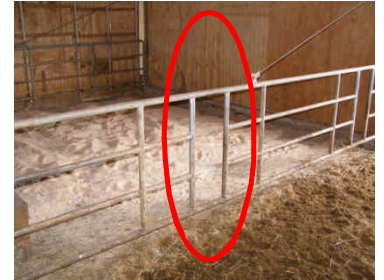
各牛群で一斉に行うことで個体同士の接触による感染症や線虫、コクシジウムなどの被害が牛房全体に広がるのを防ぐ。
タムシが発生した場合は全体に広がらないように発生個体を素早く治療することが大切。



工夫1、可能であれば是非やってみて頂きたいこと

(1)子牛の別飼い施設の設置

- ア、子牛用の飼槽を作る。
- イ、子牛だけが通れる仕切りを作る。
→子牛がスターターを採食できる環境を整える。



(2)去勢と雌を分ける

- ア、雌は去勢を比べて、ダラダラと長時間採食する傾向。
- イ、雌は去勢と比べて脂肪を蓄積しやすい傾向。
→同じ牛房で管理する場合は注意が必要。



餌箱に仕切りを入れている例

(3)月齢やDGに応じて牛房を分ける

- ア、発育度合いの類似した個体を一緒の牛房に入れる。
→牛房全体としての発育を揃える。
- イ、群の中で明らかに発育が遅れている個体は、
別飼いをを行うなど、発育の遅れを取り戻す工夫が必要。

工夫2、これからの季節に注意して頂きたいこと

(1)常にきれいな水が飲めるように、水槽のこまめな掃除を！

一つの牛房に複数頭入っていると、水槽が汚れるペースも速くなる。
また、寒さが厳しくなるこの時期は飲水量が減る傾向にあるため、特に注意が必要。

〈優良事例〉

熱帯魚用の温水装置(2,000~3,000円程度)の活用



温水装置

(2)敷料についても、こまめな交換を！

水槽と同様に、複数頭が一緒の部屋で生活していると敷料の汚れるペースも速い。
ジメジメ湿った床に横臥するとお腹が冷えてしまい、風邪や下痢の原因に。



理想的なくつろぎ方



ちょっとした工夫でできることが沢山あります

その他、ご不明な点はお近くの振興局までお問い合わせください